

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長/山本 郁矢 ■幹事/入谷 直行 ■会報・雑誌・広報委員長/細井 俊男
 ■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために
 2011-2012年度 RI 会長 カルヤン・バネルジー

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

R.I. 第 2760 地区西名古屋分区 I.M.

於:名古屋マリオットアソシアホテル 16階タワーズボールルーム

第 990 回

2012年2月21日(火) 晴 第 31 回

～ 世界理解 ～

- 斉唱 君が代 奉仕の理想 手に手つないで
 出席 会員 63 名 (出席率算入人数 63 名)
 出席 63 名 出席率 100.00%
 前々回補填率 90.74% (2月8日分)
 ゲスト 南山大学人文学部教授 安田 文吉 様
 常磐津節 五世 常磐津 文字兵衛 様
 特別出席者
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (1989-1990)
 盛田 和昭 様 (名古屋)
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (1991-1992)
 加納 泉 様 (名古屋中)
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (1998-1999)
 内藤 明人 様 (名古屋西)
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (2004-2005)
 大島 宏彦 様 (名古屋)
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (2005-2006)
 高橋 治朗 様 (名古屋西)
 R.I. 第 2760 地区パストガバナー (2008-2009)
 片山 主水 様 (名古屋東南)
 R.I. 第 2760 地区幹事
 長谷川正己 様 (一宮中央)
 R.I. 第 2760 地区副幹事
 倉地 伸幸 様 (一宮中央)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (1993-1994)
 林 永治郎 様 (名古屋)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (1996-1997)
 各務 芳樹 様 (名古屋東南)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2001-2002)
 林 隆二 様 (名古屋名南)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2003-2004)
 岡田 守功 様 (名古屋丸の内)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2005-2006)
 成田 洋之 様 (名古屋みなと)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2007-2008)
 杉本 仁至 様 (名古屋中)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2008-2009)
 近藤 雄亮 様 (名古屋瑞穂)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2009-2010)
 草野 勝彦 様 (名古屋大須)
 西名古屋分区パストガバナー補佐 (2010-2011)
 西村 忠郎 様 (名古屋栄)
 東名古屋分区ガバナー補佐
 大口 弘和 様 (名古屋千種)
 次年度西名古屋分区ガバナー補佐
 大橋 昭治 様 (名古屋名駅)
 次年度西名古屋分区 I.M. ホスト R.C.
 会長エレクト 田口 望 様 (名古屋名駅)

登 録 者 数

クラブ名	総登録者数	義務者	義務者以外	入会3年未満
名古屋	49	10	2	37
名古屋西	28	9	2	17
名古屋南	120	9	95	16
名古屋みなと	58	11	37	10
名古屋東南	79	11	52	16
名古屋中	34	11	7	16
名古屋瑞穂	65	11	44	10
名古屋大須	20	11	0	9
名古屋栄	18	10	0	8
名古屋名駅	30	8	4	18
名古屋丸の内	41	10	22	9
中部名古屋みらい	7	3	4	0
名古屋名南	62	11	47	4
合計	611	125	316	170

新人研修セミナー

■ガバナー補佐挨拶

西名古屋分区ガバナー補佐 三浦 和人さん

今日は行事が盛り沢山で、長時間に亘りますが、宜しくお願いいたします。

ロータリーは知れば知るほどおもしろい。私もガバナー補佐をやらせていただいて、役をやる毎に色々勉強できたという事を実感しております。

それでは、研修会を始めさせていただきます。



■講演

「ロータリー素描～ロータリーとの関係をどうするか～」

パストガバナー・地区研修リーダー

講師 片山 主水さん

私は、ロータリーの目的は、社会奉仕・職業奉仕のほかに、自己の人格を向上させる自己奉仕があると思っており、その為にもロータリーとして研修が必要だと思います。

私は、ロータリーに入りちょうど40年です。ロータリーと私の良い関係を作らないと、長いロータリーとの付き合いができません。その為にはどうしたら良いかを、経験の中から皆様にお話したいと思います。ロータリー関係をよくすれば、ロータリーは本当に有用・有益・



有意義であると感じております。

皆様は3年未満ですが、ロータリーとの関係が破れるのに一番危ないのが3年未満で、ロータリーを知らず、ロータリーを語らず、ロータリーを去ると言われております。3年の峠を越えると10年は大丈夫です。

さて、「入りては学び、出でては奉仕」という良い言葉があります。ガバナーになる年の半年前に、世界530地区ガバナーが国際ロータリーに呼び集められ、アメリカのサンディエゴで1週間缶詰でセミナーを受けます。その会場入口の一番目に付く所に「入りては学び、出でては奉仕」と掲げてありました。その言葉を頭に残しておいてもらいたいと思います。

また、「ロータリーに入るな、ロータリーを入れよ」という言葉があります。ロータリーにまかれな、私がロータリーを掴んで自分の懐に入れたのだ、という様に、自分中心に考えていただいた方が良いと思います。これは私が一番反省する所で、ロータリーに入った事に満足し、そこからの進歩が全然ありませんでした。皆様は自分の主体性を確立していただきたいと思います。

それから、ロータリーに関心を持ってもらいたい事を言ったのが、「ロータリーに心を注ぎ、ロータリーに心を開く、ロータリーを心に受け止め、ロータリーを心に住ませ、ロータリーの心を皆で考え、ロータリーの心を静かに思う、ロータリーの心は我等の心、ロータリーの心は世界の心」これは、ロータリーと付き合う手順です。

次に、「知・好・楽」という言葉があります。「これを知る者はこれを好む者にしかず、これを好む者はこれを楽しむ者にしかず」という意味です。私は、これだけではロータリーとの付き合いが足りないのです、この後にロータリーに無心に遊ぶ事を付け足します。無心にロータリーと付き合い、ロータリーに遊ぶ。「知好楽遊」です。

現実的に言えば、とにかく、何をおいてもロータリーに出席するという事です。出席する事からロータリーが始まります。「出席なければ親睦なし、親睦なければ奉仕なし」「奉仕は親睦から生まれ、親睦は出席より始まる」ロータリーは出席から始まります。気軽に声を掛ける事からロータリーは始まります。そして早く馴染むしかありません。例会の3s「smile shake speak」が必要です。

ロータリーとは何かを知っていただく必要があります。歴史が100年位あり、会員は100万人以上です。全世界にあり共産国にだけありません。ロータリーが世界の中でどんな評価を受けているかですが、社団として奉仕活動をしている大きな団体は世界にロータリーとライオンズしかありません。ロータリーは親睦と職業奉仕です。親睦と職業奉仕だと言う人もいます。これはロータリーの特色として捉えたものです。

ロータリーの過去の事を1つだけ覚えておいていただきたいと思います。それは、1905年という年と出来事です。日本は日露戦争の真っ最中、世界ではアインシュタインが相対性理論を発表しました。その時代に、シカゴでは、ポール・ハリスが3人の仲間とロータリーを作りました。当時シカゴは経済不況で、人身が荒廃して商道徳が崩壊していました。

ポール・ハリスと3人の仲間は、心温まる仲間を作りたいと切実に思いました。また、仲間内だけでも公正安全な取引をやりたいということもありました。皆兄弟という感覚で世の中を渡っていける世界にしたいという事がロータリーの目的でした。ところが、親睦という目的はいつからか目的から除外され、特色として残りました。また、商道徳の公正化職業奉仕の芽を見る事ができます。その事を覚えておいていただきたいと思います。

次に、ロータリーの心・行・相の基本を知っておいて下さい。

ロータリーの心とは、他人の身になって考える事が心の原点です。他人の役に立つ事を、その心を持って自然にするという事が、奉仕の原点です。

しかし、現在こんな悠長な事は世間から遅れますので、もっと方向性を持った心でなければなりません。共助共生が現在の変容したロータリーの心です。そして、国際ロータリーはshareとさかんに言います。shareとは、喜怒哀楽全ての感情、生死も分かち合うという事です。そういう気持ちを持つするのが奉仕だという事です。これは21世紀のロータリー精神です。

ロータリーの行とは、行い、活動、行動に関する事です。ロータリーの今までの流儀は、大らかにゆとりを持って上品にでした。今年、松前ガバナーは「ゆったりと大らかに生きる」と言っておられ、これと同じです。

「出席はロータリーの種、親睦はロータリーの花、奉仕はロータリーの実」という言葉があります。良い言葉です。

ロータリーの相とは、クラブの成り立ちのことで、クラブとは、皆で同じ方向を見るのではなく、円卓のように1人の人が全部の顔を見るという組織です。クラブは中に顔が向いていて個性を重んじるので入会が非常に難しいのです。開放的ではなく閉鎖的です。そのような仕組みのクラブに外に向かって奉仕をするという事を取り入れたので、調和がなかなか取りにくく、お金に関することだけを外に出そうとしたのが、ロータリー財団です。

謙虚に「我の他 すべて我が師」と思って見ていただくと、ロータリーはすばらしい人生道場です。このロータリーから多くの友情を得て、多くの美しい心を学び、健康を得て下さい。どうか、なるべく早い時期に、ロータリーとの良い関係を作っていたら、長くこれを続けていただきたいと願っております。

■謝辞 西名古屋分区分区幹事 白藤 憲雄さん

片山先生、どうもありがとうございました。先生のお話の中で感じた事をメモいたしました。有意義なお話を分かり易く、丁寧にしていただきまして、本当にありがとうございました。

先生の益々のご健勝とご活躍を祈念し、拍手をもってお礼に代えさせていただきます。

■ウェルカムミュージック

フルート四重奏「アンサンブル・エリーゼ」

■歓迎のことは

西名古屋分区ガバナー補佐 三浦 和人さん

今日一日が、参加した皆様にとって、親睦を深め更にロータリーの理解を深める機会になれば幸いです。

松前ガバナーはガバナー会議の為欠席ですが、ガバナーに代わり1つだけお願いがあります。

松前ガバナーは会員数5000名をクリアして次へバトンタッチしたいと考えておられます。今は120名程足らない状態ですので、尚一層会員の拡大を宜しくお願ひしたいと思います。

さて、今日は南山大学の安田文吉先生と常磐津文字兵衛さんに講演をいただく事になっております。安田先生には江戸時代の人々の暮らしを紹介していただきます。常磐津は江戸時代のポピュラーソングでした。

先週、東名古屋分区のI.M.に出席し、養老孟司先生の講話を聞きました。現在の日本人は、1人の個人が、内部から消費するエネルギーの40倍の外部エネルギーに依存して生活しており、その結果、個々の人の能力が逆に低くなったのではないかと指摘がありました。第二次世界大戦で、欧米諸国は日本に油の禁輸措置を取りました。日本人は困ったでしょうか。農業は人手、電気は水力中心、火力は石炭火力発電所で、日本人の生活では油が来なくても困りませんでした。ところが日本軍だけは困りました。そこで東南アジアの油田地帯を確保する為に戦争が始まってしまったと先生は指摘されました。

江戸時代の話がこれから始まりますが、江戸時代は原油の輸入も何もありませんでした。しかし、色々な文化が発達しております。現在、イランの核開発に伴い、ホルムズ海峡の封鎖等で今後油が輸入できないのではないかと心配があります。その事も含め日本人の可塑性に富んだ性格で、油が無くても日本はやっていけるのではないかと感じがします。

江戸時代の事を考えたら、そう難しい事でも無いと自信を持っていただければ、今日の話が非常に成果があるのではないかと思います。

■次年度ガバナー補佐挨拶

次年度西名古屋分区ガバナー補佐 大橋 昭治さん

この第2760地区西名古屋分区というのは、日本のロータリー全体を捉えてみても、一番伝統があり、人数も多く、出席率も最も優れたクラブであります。名古屋R.C.を先頭に、伝統ある13のクラブがスクラムを組んで、これからもずっと続けていただきたい、その1年間を預かる事になり、非常に身の引き締まる思いであります。最近どうもロータリーはメイクアップをする機会が非常に少なくなり、同じ名古屋



市内のクラブの事情さえ分からない会員が沢山お見えだと思います。今日は皆様と手を結ぶ良い機会ですので、できるだけ他のクラブの方とお話をさせていただきたいと思っております。

■次年度I.M.ホストクラブ挨拶

名古屋名駅R.C.会長エレクト 田口 望さん

次年度I.M.開催にあたりまして、高い席からではございますが、お願い方々一言ご挨拶申し上げます。

現在、当クラブ一丸となりまして、I.M.の目的であります、会員相互の親睦と面識を広げる事、また、実り多く楽しい企画を目指しまして、鋭意検討を重ねております。開催日は、平成25年2月20日(水)の午後を予定しております。その他詳細につきましては、決定次第ご報告をさせていただきます。何卒宜しくご理解ご協力の程お願いいたしますと共に、皆様のご参加を名古屋名駅R.C.一同、心よりお待ちしております。挨拶とさせていただきます。



■講演「名古屋開府 400年と名古屋の底力」

南山大学人文学部 教授 安田 文吉氏

おはようございます。江戸時代は「お早にお出で」と、相手に敬意を表して言うのが元でした。

今日は、天守閣になぜ徳川家康が金の鯨を乗せたかという事と、それを受け継ぎ、飛躍的に発展させた七代藩主徳川宗春のお話をさせていただきます。

本当は、最初に名古屋に目を付けたのは、今川義元の父、今川氏親です。今川氏親は、今の名古屋城の二ノ丸の辺りに那古野城を造りました。今川は天下を目指し都に近づくために名古屋に進出しました。それを防いだのが、信長、信秀の親子でした。信長はその後、清須へ行き、小牧、岐阜、安土と都を目指して行ったところ安土で駄目になってしまいました。

ところが、家康は、清須では経済活動がやりにくいので、また名古屋へ戻りました。家康は先見の明がきく人で、1600年関ヶ原の合戦前から「貞観政要」という中国の政治書を出版し、家来に配り、今後の政策方針を示しました。家康は、天下を取った後には経済活動が重要である事を見通してました。そこで、政経分離により、三男秀忠は江戸で政治を行い、四男忠吉は名古屋で経済を司る事を考えました。忠吉は関ヶ原の合戦で受けた傷が元で28歳で亡くなってしまいますので、その後を受け継いだ九男義直が初代藩主となります。

江戸を経済活動の中心としたのでは西ばかりになってしまうので、日本の真ん中でどこへ行くにも便利が良く、京都・大阪に近く、守りについても伊勢湾や木曾三川があって良く、海運もできるという事は、家康が名古屋に金の鯨を乗せた1つの理由です。ここが経済活動の中心地であるという事のシンボルとして金の鯨を乗せました。

また、昔からの土地条件も重要でした。熱田台地



の北の一番高いところに名古屋城を建て、城のうしろは深井という湿地帯、南の一番低いところに熱田神宮、尾根は本町通りです。名古屋という所は、伊勢湾、木曾三川、木曾の山、濃尾平野、つまり山の幸、川の幸、海の幸、野の幸に恵まれています。元々生産性が非常に高い所ですので、そこで努力をすればもっと沢山の物が採れたりします。

また、土地柄は名古屋弁について見てみるとよく分かります。名古屋弁には、「おじさま、おばさま、にいさま、ねえさま」のように「さま」がつきます。「おいてちょうだやあ、米をかしてちょうだやあ」の、古語が生きています。「ようけ、ぎょうさん」の京言葉が入っています。その他の名古屋弁としては、あそばせ言葉の「ごまやあすばせ、いらやあすばせ」武家言葉の「ござりまする」などがあります。

豊かな所は変わらなくて良く、豊かな所だから、名古屋人は元来節約好きです。少し前までは貯蓄率日本一は名古屋でした。原則借金はしません。また、名古屋人は祭事・慶事・仏事には出し惜しみしません。派手な訳ではなく、なんでもきちんとやります。そして、名古屋人は地縁血縁をととても大事にします。名古屋はちょうど適当な広さで、そのような名古屋人気質を含め、家康はここに決めました。

家康は、経済活動を中心にするために、信長が清須に連れて行った大商人を呼び戻しました。名古屋城下に碁盤割の町を造り、大商人を住まわせ、そこで経済活動を活発にやらせました。城下町の南から東にかけて下級武士を住まわせて碁盤割の町を取り囲み、1つの守りとししました。さらに、その前にお寺を造りました。お寺には仏像があり、お墓があり、江戸時代の人たちは靈魂、御霊を恐れましたので、戦わずして勝つというような形になります。それを受け継ぎ、初代藩士の義直は碁盤整備に力を尽くし、入鹿池などを造りました。

義直は、謹厳実直と言われていましたが、実はそうではない面がありました。寛永12年7月22日に三代将軍家光が江戸城で茶宴を開いた時に、義直は尾張から若衆を23人連れ、家光の前で踊りを踊りました。この踊りは殿様踊りとしてとても有名です。つまり尾張という所は、1つは謹厳実直な経済活動を行います、もう1つ遊びの面を持っており、そこが大事なのです。その結果、家康が目指したものが徐々に育ってくることになりました。

名古屋城は日本で一番良い城で、国宝に指定されたのも名古屋城が一番早いです。実測図が全部残っているお城は名古屋城しかありません。

そして、それを更に発展させたのが、七代藩主宗春です。宗春は、享保15年11月28日に尾張藩主になったとたんに、基本政策理念を「温知政要」という本にして出版しました。家康が慶長5年に配った「貞観政要」と同じ政要で、これは、いかに宗春が家康の意思を受け継いでいるかの表れであります。この中で、法度は必要最小限にし、後は人々の人間性に任せるべきと書いています。質素儉約は大事だが、お金は生かして使う事が大事で、お金を使う所ではきちんと使えば、産業が活性化して経済的な動きができます。また、磔、獄門、打ち首はよほど確かな証拠が無い限りしてはいけないとした死刑反対論者で、宗春の時には1人も死刑を科しませんでし

た。

皆が元気が出る仕掛けの元気政策として、祭礼をもとに戻す、芝居場所増設の許可、遊廓の公許、一番大事な地場産業の保護育成と販路の拡大に努めました。これについては、奈良本辰也先生の『日本の歴史』によれば、春日井郡における陶器・大根・煎茶、海東郡の西瓜、知多郡の陶器・たばこ、愛知郡の絞り染、武儀郡の美濃紙、可児郡の栗・炭などが、「あるいはその販路をひろげ、あるいは農民の副業として手広く生産され始め」て、産業が目覚ましい発展をみせており、その頃の藩内では「新しい生産の芽が続々と生い立って」いたのだが、「宗春の英断が火に油を注いだ結果となって現れた」のであると指摘されています。

つまり、ここでは農民の収入が格段に増えた事を言っています。町人はその前に増えています。規制緩和で活性化をしたら、収入が増えたのです。税金は値上げしていませんでした。宗春の時代はこのようでした。そんな事で、産業が非常に発展しました。

例えば、からくり人形山車、芝居小屋作り等の職人が集まり、名古屋の物づくりの原点となりました。宗春が失脚後も町人が主体的に動くようになりました。これで名古屋が更に発展をしていきます。

また、ここは豊かな土地なので経済活動も盛んですが、一方で芸能文化も盛んになりました。例えば、能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・踊り・バレエ・フィギュアスケート等です。

名古屋の底力と言うのは、元々豊かな所で、そこできちんと物事をやれば、それは色々な力となって出てくるという事です。芸能、食文化、特に物づくりにおいての事です。そして、もう1つ、名古屋人の一番の底力は何かと言いますと、「まあ、ええがやあ」という言葉です。徹底的にとことん対立せずに、お互いに「まあ、ええがやあ」とする事で、全体が力を合わせる事に繋がるのではないかと思います。

■講演「江戸期のポピュラーミュージック

～常磐津節～実演を交えて」

五世 常磐津文字兵衛 氏

おはようございます。文吉先生のお話を聞いて、なるほどこうして使って良いのだと、大変心強く思っております。

常磐津節は江戸のポピュラーミュージックで、町人音楽です。日本音楽は能や琴など沢山ありますが、この背景は何か迷ってしまいます。例えば、日本の伝統音楽は、それぞれが愛好し、伝承した階級によって、ジャンルが違ってきます。武家階級の能楽、武家・中流以上の子女が習ったお箏の合奏曲、それから歌舞伎と一緒に発展してきたこのような三味線音楽は町人文化の音楽です。また、僧侶・神官階級・貴族階級によって伝承された雅楽。こういったように、その背景にどういう人達がやっていたかを少し考えていただくと、その音楽を聞いた時に興味が増していただけるのではないかと、考えております。

私共の常磐津は、三味線音楽の1ジャンルです。三味線音楽とは、主に三味線を伴奏に使う音楽です。私共は、中棹三味線を使っております。大阪の

義太夫の太棹三味線、長唄で使用される細棹三味線の間にあるのが、常磐津の中棹三味線です。中棹は非常に範囲が広く、1570年位に琉球から大阪の堺に到着したのではないかとされており。その当時は蛇の皮が貼ってありました。現在は、猫の皮です。1匹から計算上は2枚取



れます。猫の皮は左右対称で、良質な振動を得るには非常に重要です。これは消耗品なので破れます。お稽古用には犬の皮を貼っています。犬の皮は1匹から4枚取れ、左右非対称ですので、響きがいまひとつです。棹の木は紅木で、インドから輸入されています。胴は花梨でタイからの輸入材、糸巻き・黒檀は東南アジアです。糸は国産で、京都辺りで撚って作っています。駒は象牙でできています。象牙はワシントン条約により、非常に輸入が難しくなっております。また、職人の数も減っており、駒に関しては危機的状況です。

三味線はもともとシルクロードから来て、中国の三線という楽器にたどり着き、それが原型だと言われております。日本の三味線は撥で弾きます。常磐津は象牙の撥で弾きます。撥で弾くのは日本だけで、これは琵琶の撥です。当初、三味線が輸入された時に、琵琶法師が琵琶の撥で弾いてしまい、それ以来撥を使うようになりました。この琵琶型の撥を使う事によって、日本の三味線は大音量を手に入れました。少し弾いてみます。

三味線は、永禄年間には日本に登場しており、瞬く間に市民に広がりました。ちょうど歌舞伎が400年と言いますが、歌舞伎の発祥と三味線の伝来は時期が同じです。

普通と違う事をする人が傾き者でした。人と違う事をやりたい人達が、外来楽器を見逃すはずがありません。とたんに歌舞伎踊りと一緒になって、国民的楽器となりました。

延享4年(1747年)に常磐津節が成立しました。常磐津節は歌舞伎と共に発展してきたので、歌舞伎の台詞の要素を沢山取り入れました。常磐津舞踊の歌舞伎としては名作と言われている、「将門」の中から台詞部分と「さがやおむろ」という口説きの部分、歌のメロディーを聞いてもらう部分ですが、ここを続けて演奏してみたいと思います。

次は、「乗合舟恵方漫才」から通人のくだりを聞いていただきます。この通人のくだりが面白いのは、短い中に、笑いの要素、怒りの要素、泣きの要素、要するに酔っ払って三上戸をやってみせるという趣向の部分です。

このように音楽と台詞の要素が一緒になったものを浄瑠璃と言ひ、語り物音楽というジャンルの特徴になります。

今のカラオケでやっている音楽は、伴奏と歌が同じ拍に出てきます。三味線音楽は、伴奏と声のリズムが1こずつずれています。三味線は1こ弾くと歌が1文字出てきます。少しやってみます。

三味線と歌の拍をずらすと、歌は三味線と同じ音にいかないで済みます。ただ、民謡に関しては三味線と同じ拍です。要するに、都会で育った三味線音楽の部類は、こういう事で変化を付けていったのが分かります。

それでは、「乗合船恵方漫才」から三河万歳の部分を、やらせていただきます。

ありがとうございました。今日は旧正月です。ちょうど今の時期、江戸時代の人達は万歳が来て、家々の前でこのような御祝儀を待っていたということです。

メイクアップのご縁で、今日このようにお話させていただいて、非常にありがたく思います。また歌舞伎の折には、色々なクラブに出没させていただきますので、その節はどうぞ宜しくお願いいたします。



■謝辞 I.M. 実行委員長 山本 誠一さん

只今、安田先生の講演、文字兵衛先生の実演を交えた講演をお聞きいただきました。いかがでしたでしょうか？この組み合わせが実現いたしましたのは、1年前、安田先生に講演をお願いした所、常磐津節の話が出て参りました。名古屋講演の時に、文字兵衛先生が私共のクラブにメイクアップに来ていただいた事をお話しました所、顔見知りであれば、めったに聞く事が出来ないから是非連絡を取ってみてはどうかという事でした。そこで、図々しく文字兵衛先生のご自宅へお電話差し上げました所、ご快諾をいただきまして、今日の運びとなった次第でございます。

尚、安田先生、文字兵衛先生共に、この後の懇親会にもご出席いただけますので、また、懇談をしながら親睦を深めていただきたいと思います。

最後になりましたが、西名古屋分区のロータリアンの皆様には、このように多数のご登録をいただ

き、盛大に開催できました事を、大変嬉しく思っております。甚だ簡単ではございますが、皆様のご協力、ご支援に感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

第 2 部 懇 親 会

■歓迎のことは

名古屋名南 R.C. 会長 山本 郁矢さん

多くの特別出席者の皆様、お忙しい中出席いただきまして、ありがとうございます。

本当にこのように大勢の方に、ご出席、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

先程お話があった様な江戸文化というものを、皆様話題にしながら、この場で更に懇親を深めていただき、更に交流の輪を広げていただければ、大変幸いかと思います。

どうぞごゆっくり、お時間の許す限り最後まで、交流の輪を広げていただけるようお願い申し上げます、簡単ではございますが、歓迎の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



■特別出席者代表挨拶

パストガバナー 盛田 和昭さん

私は、14日に東名古屋分区の I.M. に行ってきました。その時は、東大の養老先生が環境についてお話になりまして、少し難しい話だなと思いました。

また、19日には西三河分区の I.M. に行ってきました。その時は、三河は真面目な人が多いので、ポール・ハリスが何故ロータリーを作ったかという事から、今のロータリーはどうかというディスカッションをしたいという事で、私はポール・ハリスについて30~40分話をしました。

名古屋の2つの I.M. と三河の I.M. を比べると、大体性格が分かります。昔で言えば、信長と家康の差だと思います。それくらい三河の人は真面目です。これは、私がガバナーの時の公式訪問でも感じた事で、ものすごく鋭い質問をされて参った事もあります。

どちらのロータリアンが良いかは良く分かりませんが、名古屋で三河式をやったらこんなに大勢が出席なさらないと思いますので、これはこれで良いのではないかというのが、私の感想でございます。



■乾杯

パストガバナー 内藤 明人さん

今日は大変素晴らしい、伝統ある尾張名古屋のロータリーの催しに相応しいお話を2つ聞きまして、本当に感激いたしました。これから名古屋地区のロータリーとしましては、伝統ある尾張名古屋を上手く継承しまして、仕事に文化に我々としては大いに役立っていきたいと思います。



それでは、我々の前途を祝しまして、乾杯したいと思います。

乾杯！

■アトラクション



フルート四重奏「アンサンブル・エリーゼ」

■閉会挨拶

名古屋名南 R.C. 副会長 伊藤 博昭さん

本日は、お忙しい所ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

お陰をもちまして、2011年より2012年度の R.I. 第2760地区西名古屋分区の I.M. を無事に終了する事ができました。至らぬ所、不備の点が多々あったかと思いますが、お許しを頂戴したいと思っております。

特別出席者の方を始め、本日ご参加いただきました全ての方に、心より御礼を申し上げます。

最後になりましたが、南山大学の安田先生、常磐津文字兵衛先生には、長時間ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。閉会の挨拶と代えさせていただきます。